

Toshizoプロデュース製作映画

# 『ミックスモダン』

多くの人とつながっているのに、孤独

誰にも必要とされていない自分

なんで自分は生まれてきたんだろう

人としての自信がほしい

こんな想いを持つひとたちに

この映画を届けたい



## 【Toshizoプロデュースの理念】

可能性に満ちた想像力豊かな世界を目指す。

『情熱や可能性は目に見えづらいけど、  
それこそが何かを生み出すもとになるもの。  
情熱は可能性を導き出し、可能性は情熱を後押しする。  
小さな可能性が集まり大きな可能性を生み出す。  
自分たちのよろこびが、誰かのよろこびになる。』

## 【 Toshizoプロデュース代表の紹介】

1956年 大阪・和泉市に生まれる。

1994年 映画・演劇企画集団『Toshizoプロデュース』を発足  
オリジナル脚本による舞台公演20作品以上を企画・演出

俳優として・・・

1980年 黒澤明監督『影武者』で映画初出演

1988年 NHK大河ドラマ『武田信玄』

1991年 北野武監督『あの夏、いちばん静かな海。』

1992年 ユニバーサル映画『ミスター・ベースボール』

演出家として・・・

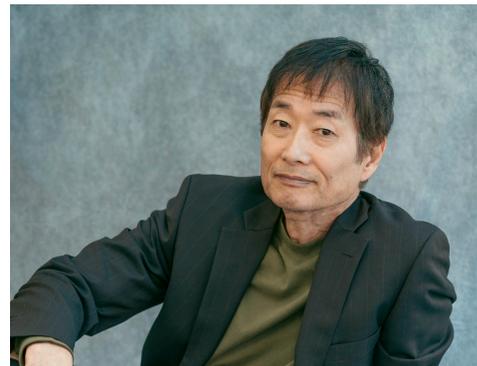
2003年 スペイン各地にてノーベル文学賞 J.ヒメネス原作『プラテロとわたし』ヒメネス財団後援

2007年 スペイン・カンタブリアにて日西平和芸術文化祭「Festival de Una Flor」舞台『ひとつの花』

映画監督として・・・

2005年 『シアター』（脚本・監督）がヒューストン国際映画祭にて「Bronze Rem Award」を受賞  
NATIONAL THEATER OF YOUNG ARTISTSにて英語教育のためのドラマ映画「POP STAR」制作

2014年 Toshizoプロデュース舞台作品『空の裏側』を映画化、各地で上映され好評を得る



ふじわら としぞう  
藤原 稔三

### ◆◆ 別の顔 ◆◆

2019年に元受刑者の就労支援団体のシンポジウムに参加。  
元受刑者によるスピーチを聴き、自身も何か支援をしたいと考える中で  
保護司制度を知り、2021年5月より保護司として活動を始める。

## 私自身のこと、映画を作ろうと決心したきっかけ

私は、昭和31年大阪泉州の綿織物工場を営む経営者の孫に生まれ、幼少期経済的にとても恵まれた生活を送っていました。一方で、三男としてのひがみ根性が強く、特に長女となる妹が生まれたあと、保守的な家風の中で自分はいつも「スペアキー」なんだという自覚がありました。

私が6歳のころ、時代の流れと放漫経営により会社はあっという間に倒産し、その間にも父は家族を顧みず毎日やけ酒を飲んで暴れていました。血を流す母を見向きもせず、叩き壊したタンスの中から私たちの預金通帳をひたたくって出ていった姿は忘れられません（数年後父は家を出ていく）。

小さい頃から家庭教師、ピアノ教室など英才教育を受けていた兄は、ある時から父や母からも暴力（主に言葉の暴力）を受け、徐々に精神を病むようになり、後年30年あまりの精神病院生活の後亡くなります。

「スペアキー」だった私は独学で「自分」を作っていました。親に逆らい、腹が立ったら喧嘩をし、平気で嘘をつき、欲しい物があれば盗る……

当然の流れで家裁の世話になり、その時はなんとか観察処分で済みましたが、10代の頃、「スペアキー」は錆びてゴミのようになっていきます。

そんな時、救いになったのが映画でした。映画の中ではすべてつじつまが合う。映画館の暗闇の中では笑っても泣いてもすべて許される。自分は想像の世界を開く「キー」になりたいと思いました。

好きが高じて俳優を目指し、いつか俳優として「喰えた」時期がありましたが、ご丁寧に家風を受け継いだ私は放漫経営の挙げ句、舌癌を患い商売道具の舌を失ってしまいます。なんとか命はつながりましたが、事務所をクビになりいよいよ・・と思った時、私はまた映画に救われました。毎日毎日映画館をハシゴし、慰められ、勇気もらいます。

2019年、元受刑者の就労を支援する『職親プロジェクト』のシンポジウムで人生を覆すような出会いがありました。壇上で切々と己の過ちを振り返り、人生をやり直す覚悟ができたと高らかに宣言する元受刑者たちのスピーチ（女性もいました）。虐待を受け、存在を否定されてきた彼らが生まれてはじめて人のあたたかさと生きる意味を知ったと声を詰まらせる。

そんな彼らの親代わりになる覚悟を持って支援する会社経営者たちの姿。

私は会場を出て駅までフラフラと歩きながら、心の底から熱いものが沸き起こってくるのを感じていました。自分もなんらかの形で関わりたい。でも自分には雇えるような会社がない。彼らのことを多くの人に知らせたい。支援する人たちのことをたくさんの人に知ってほしい。自分には一体何ができるんだろう？

…駅の階段に足をかけた瞬間、突然心の中に『映画』という2文字が浮かびました。「そうか、映画か、映画だ！自分にできることはこれしかない！」

私が失意のどん底にいた時、私を見放し去っていく人もいました。しかし、「人に見捨てられても、自分を見捨てちゃだめだよ」「夢を持ち続けなければ必ず出会う人がいるから」と手を差し伸べ、勇気づけてくれた人たちの存在がありありと蘇ってきました。あの人たちがいなければ、今の自分はいなかった。壇上の彼らと自分が重なるような体験でした。

私は事あるごとに映画に助けられ、多くの人に救われ、勇気を与えられてきました。今度は、この作品が「やり直せるチャンス」「誰もが持っている小さな可能性」

「線引きをしない寛容さ」を実現する「キー」となる。スクリーン越しに出会う人たちの世界を開く「キー」となりたい。

映画『ミックスモダン』が「キー」となるために、この作品を多くの観客に届けなければなりません。

それには、皆様のご協力・ご協賛が必要です。

ぜひ私達と一緒にこの映画を世に送り出してください。

藤原 稔三

# メインテーマ は 命

血のつながった家族から見放され、幼少期から生きることを否定されてきた少年が他者とつながり、その中で「命」を学んでいく。

誰かに傷つけられたとしても、人間に失望するのではなく、  
“小さな可能性“をあきらめない。  
新たな出会いを求めていく。縁は人を裏切らない。

知ること世界が広がる ～更生保護の重要性～

線引きをしない寛容な社会へ

～やり直すチャンスが負の連鎖を断ち切る～

分かち合う喜び ～ひとりではないと感じられる社会～

## 映画『ミックスモダン』あらすじ

大阪千日前でお好み焼き店を営む博之(53)と園子(42)。

元従業員が起こした事件により店の経営がままならない中、博之は少年院での面接で「やり直したい！生まれ変わりたい！」と訴えかけてくる勇人(18)を雇い入れることを決める。親に身元引受けを拒否されている勇人。一方、博之には若い頃に道を踏み外し、弟を族グループのリンチで失ってしまった過去がある。

仮出院後、社員寮での生活がはじまり必死で仕事を覚えようとする勇人。初めての給料で父へのプレゼントを買い、届けに行くが父は知らぬ間に引っ越していた。幼い頃母に捨てられ、父との唯一の連絡手段の電話も通じず、ふたたび親に捨てられた勇人は、博之ではなく過去の窃盗仲間・拓巳に連絡を取ってしまう。ある日、拓巳に連れられたクラブで幸杷(ゆきは：17)と運命的な出逢いをする。

「前の男とは別れる。いっしょにやり直そ」と約束し、一緒に暮らし始めようとする二人の交際は勇人の勤務態度にも影響を及ぼす。突然幸杷の姿が消えたことをきっかけに勇人は店で次第に孤立、暴走していく。博之と園子は身元引受人として、一人の人間として勇人に何ができるのか。勇人自身も未来への選択を迫られる事態に直面していく。



本作品は、2023年2月～4月に大阪と東京で撮影され、2024年2月に完成しました。105min

## 撮影協力

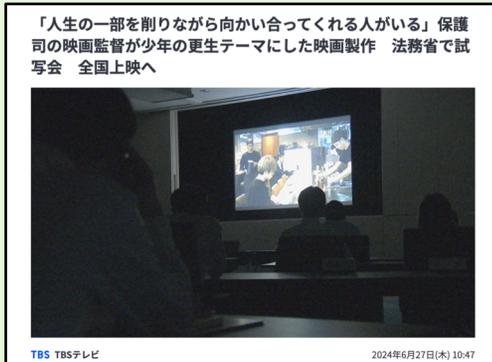
加古川学園（男子少年院）  
交野女子学院（女子少年院）  
『千房』千日前本店 他



## 後援

法務省、和泉市、和泉市教育委員会

## 全国少年院長会議での上映会



2024年6月26日(水)法務省で開かれた全国43ヶ所の少年院の院長が集まる会議で本作品が上映され、記事が掲載されました。

千駄ヶ谷の更生保護会館でも上映会を実施いたしました。

## 出演者

井戸大輝、サーシャ、常石梨乃  
藤原稔三、二階堂智、矢田政伸  
伶以野陽子、藤田朋子(特別出演)

## スタッフ

監督・プロデューサー 藤原稔三  
脚本 藤原稔三、三国 鈴  
撮影監督 五味 護  
撮影 澤江 篤  
録音 萩原一輔  
音楽 茜之智  
宣伝美術・webデザイン 大島あまね  
制作協力 阪口伸六、菱田信也

## 試写会アンケートより（抜粋）

更生保護がメインテーマとして流れながらも、さまざまな「生きづらさ」、親子の絆や命の大切さなど、改めて考えさせられました。

多くの少年たちが実際に経験するであろう出院後の生活のゆらぎ、心のゆらぎがリアルに描かれていました。ぜひ、少年院にいる少年たちに観てほしいと感じました。

主人公のオーナーとその奥様の苦悩と葛藤や、少年院から出所したまだまだ若い二人が不器用に生きながら、周りの方に支えられ学んで行く姿がとてもリアルでした。

出院後の少年の様々な苦悩が細かく描写されており、「私ならどう対応するかな？」と考える場面が随所にありました。作品を鑑賞し、形式的な社会復帰支援に陥ることなく、細かな悩み事に応えていくことの大切さを改めて感じました。

## 目標

- ・国内及び国際映画祭への出品
- ・2025年度の全国映画館での公開
- ・少年院・刑務所や更生保護関連施設での上映

宣伝や上映に必要な資金のご協賛を募っております 目標金額 800万円

### 映画上映支援・ご協賛コース

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース
対象	個人	個人・企業・団体	個人・企業・団体	個人・企業・団体
協賛金額	1口：1万円（4口まで）	1口：5万円（1口まで）	1口：10万円（4口まで）	1口：50万円（最大100口まで）
ウェブサイトにお名前掲載	○（小サイズ）	○（小サイズ）	○（中サイズ）	○（大サイズ）
映画エンドロールにお名前・ロゴ掲載		○（小サイズ）	○（中サイズ）	○（大サイズ）
ポスター・チラシにお名前・ロゴ掲載				○
劇場鑑賞券	1口：1枚送付	1口：5枚送付	1口：10枚送付	1口：50枚送付
映画パンフレット		1口：1部送付	1口：2部送付	1口：10部送付
映画パンフレットに広告掲載				○

※お名前、企業名、団体名の掲載をご希望されない方は、その旨ご連絡ください。ニックネームの掲載も可能です（10文字まで）

内閣府 S I P (戦略的イノベーション創造プログラム)

「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」ピアレビュー委員会委員

前高石市長

阪口 伸六 様 からの応援メッセージ

高校以来、互いに全く違う世界を歩んできた藤原君と数十年ぶりに再会。彼が製作したこの作品の試写を観て、これまでに人生を重ねる中で出会ってきた困っている人、悩んでいる人たちに対して、何かもっと手助けは出来なかったのだろうか？と、思わず自問自答していました。

お互いを助け合い支え合う、そんな社会をつくることの大切さを映画に感じ、違う人生を歩む中で抱いてきた思いは同じなのだ胸が熱くなりました。私は全面的に応援しています。この映画を一人でも多くの方にご覧頂き、人にやさしい明るい社会をつくることに繋がればと願ってやみません。



千房株式会社 代表取締役会長

中井 政嗣 様 からの応援メッセージ

監督自ら、出演俳優と共に千房にて職場体験を重ねたり、職親プロジェクトのシンポジウムに何度も参加し、更生保護ということ掘り下げようとする姿勢に感銘を受けてきた。物語のリアリティを上げようとする監督の情熱、『命』という普遍的なテーマを持つこの作品を心から応援しています。

本作品の製作にあたり、惜しみないご協力を賜りました。

ご協賛方法 以下①～②のいずれかからお申込みください。

① 映画『ミックスモダン』公式サイトからお申込み。

で検索するか、

右のQRコードを読み取ってください。



映画公式サイト

② メール (mixmodern.movie@gmail.com) に下記を明記の上、ご送信。

件名「ミックスモダン協賛の件」

- ・お名前
- ・ご希望のコースと申込口数
- ・ご住所、連絡が取れる電話番号

## ご協賛金お振込先

下記銀行口座にお振込みをお願いいたします。

こちらにご連絡がない場合、お名前の掲載等ができませんのでご注意ください。

※振込手数料につきましては、誠に恐縮ではございますが、ご負担をお願い申し上げます。

三菱UFJ銀行 泉ヶ丘支店 (4 5 1)

普通口座 番号：0 2 9 1 0 0 4

名義：トシゾープロデュース

ご不明な点がございましたら、mixmodern.movie@gmail.com か  
090-6026-8494 (担当：大島あまね) までお問合せください。

ご後援 法務省、和泉市、和泉市教育委員会